

沖縄県赤土等流出防止対策基本計画が策定されました

沖縄県では、昭和47年の本土復帰以降、公共工事や開発事業が大幅に増加したことから、大雨時などに大量の土砂が川や海へ流出するようになりました。流出した土砂は、川や海を真っ赤に染めてしまうばかりでなく、海底に堆積してサンゴなどの生き物を死滅させ、漁業や観光業へも悪影響を及ぼすことから、このような問題を赤土汚染問題と呼んでいます。

そのため、県では、開発事業からの赤土等流出を規制するため、平成7年に沖縄県赤土等流出防止条例（以下「赤土条例」という。）を施行し、赤土汚染問題の解決に向けて取り組んできました。

図1は、赤土条例施行前の平成5年度と施行後の平成23年度の赤土等年間流出量を推計した結果です。赤土条例の施行後、開発事業からの流出量は85%が削減され、県全体の赤土等流出量は43%が削減されました。一方、農地に関しては、畑面の勾配修正やグリーンベルトの普及等により流出量の21%は削減されましたが、県全体の赤土等流出量の86%を農地が占めていることから、今後は農地対策を重点的に進めていくことが課題となっています。

また、平成21年度から平成23年度にかけて実施した海域における赤土等堆積状況調査では、明らかに人為的な影響で赤土等流出があると判定されるSPSSランク6以上の海域は、55%（全110海域中61海域）であり、県全域に設定した調査海

域の半数以上は赤土等流出の影響を受けていることが分かりました。（図2。SPSSについては図3参照のこと。）

赤土条例の施行により、開発事業からの赤土等流出量は大幅に削減されましたが、沖縄周辺の海域環境は十分な回復までには至っていません。

そこで県は、十分な赤土等流出防止対策を実施していくためには、各関係機関および県民が目指すべき目標を共有し、目標達成に向けて連携して取り組んでいく必要があるとの観点に立ち、赤土等の流出防止対策を総合的・計画的に実施していくための基本計画として、平成25年9月に沖縄県赤土等流出防止対策基本計画を策定しました。

この計画では、県全域に76の監視海域を設定し、それぞれの海域に環境保全目標および流出削減目標量を設定しています。なお、対象期間は、平成25年度から平成33年度までの9年間となっており、今後、県では環境生活部、農林水産部、土木建築部などの関係部局毎に更に具体的な行動計画を定めて、目標達成に向けて取り組んでいく予定です。

沖縄のきれいな青い海、サンゴ礁の美しい海を保全するためには、県民の皆さまの協力がますます必要となっています。 【環境科学班】

沖縄県赤土等流出防止対策基本計画は、以下のホームページで閲覧・ダウンロードできます。
<http://www.pref.okinawa.lg.jp/site/kankyo/hozen/akatutikihonkeikaku.html>

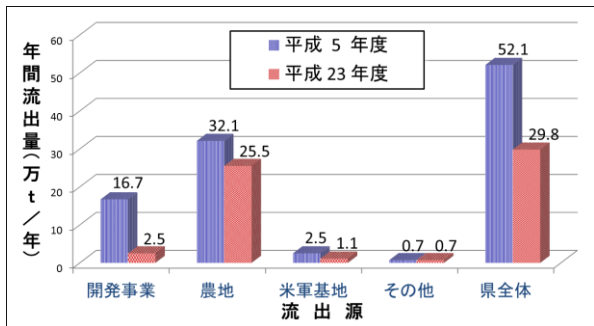


図1 赤土等年間流出量（推計）の変化
 （「沖縄県の赤土流出について-赤土等ガイドブック」、「平成23年度 赤土等に係る環境保全目標設定調査 報告書」より）

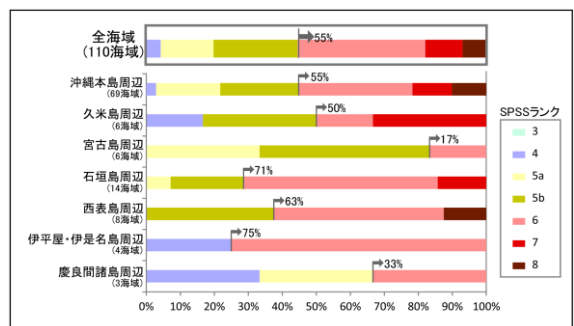


図2 最大 SPSS のランク別割合 (平成21年度～平成23年度調査)
 （「沖縄県赤土等流出防止対策基本計画」より）

SPSS kg/m ³			底質状況その他参考事項
下限	ランク	上限	
	1	<0.4	水中で砂をかき混ぜてもほとんど濁らない。 白砂がひろがり生物活動はあまり見られない。
0.4 ≦	2	< 1	水中で砂をかき混ぜても懸濁物質の舞い上がりを確認しにくい。 白砂がひろがり生物活動はあまり見られない。
1 ≦	3	< 5	水中で砂をかき混ぜると懸濁物質の舞い上がりが確認できる。 生き生きとしたサンゴ礁生態系が見られる。
5 ≦	4	< 10	見た目ではわからないが、水中で砂をかき混ぜると懸濁物質で海が濁る。 生き生きとしたサンゴ礁生態系が見られる。透明度良好。
10 ≦	5a	< 30	注意して見ると、底質表層に懸濁物質の存在がわかる。 生き生きとしたサンゴ礁生態系のSPSS上限ランク。 (写真1)
30 ≦	5b	< 50	底質表層にホコリ状の懸濁物質がかぶさる。 透明度が悪くなりサンゴ被度に悪影響が出始める。
50 ≦	6	<200	一見して赤土等の堆積がわかる。底質攪拌で赤土等が色濃く懸濁。 ランク6以上は、明らかに人為的な赤土等の流出による汚染があると判断。
200 ≦	7	<400	干潟では靴底の模様がくっきり。赤土等の堆積が著しいがまだ砂を確認できる。 樹枝状ミドリシ類の大きな群体は見られず、塊状サンゴの出現割合増加。
400 ≦	8		立つと足がめり込む。見た目は泥そのもので砂を確認できない。 赤土汚染耐性のある塊状サンゴが砂漠のサボテンのように点在。 (写真2)



写真1 ランク 5a の海中と底質の様子
(SPSS : 15.4kg/m³)

写真2 ランク 8 の海中と底質の様子
(SPSS : 423kg/m³)

図3 海域底質中の懸濁物質含量 (SPSS) のランクと海中及び底質の様子
(「沖縄県の赤土流出について-赤土等ガイドブック-」より)

SPSS とは、海域底質中の懸濁物質含量のことで、赤土等の堆積状況について判断するための指標です。SPSS は 9 つのランクに分類されており、5a よりもきれいな状態を維持することで、健全なサンゴ礁生態系が保全できます。